好色一代男

一

特別
ヘ13
4403
2
早稲田大学図書館

好色一代男

巻二目録

十五文
十六文
十七文
十八文
十九文
二十文

N13
4408
2

2016-5

十二

たちあはのねたを

ちよ〻十二の表を見こゝろをゆるさあて、さかえ給期りう、神ゐ〻と
ゆ〻しさて世の人よりはまりをうつろつゝさぞおもしろかりけるを
見て、うつせよあるゝさしまる、一人ふうり、花はうの紙とをひろひ、ちを野
のゆどりとりふ、はなぞとりて、人のいさんをもゝおとゝはうゆさぐるみ
し梅を、まをふるゝ山ふくゝうせいりけまくをかゝじあなすこと
ゆをとるゝ山川をうとはぐゝさるゝ紙をうくゝみびてびをかるゝ
までの恋ぞいのゝうゝと、ゆりゆゆ、ゆるさいるふ、花の見ゝ
ゐ、稲荷の里ををぐゝとうちふるの神やゝうをゆゝ涙こして、
ふ里ゝ松のべ、ゐうゝ山の月とはかとう彩ゐ花の風ふ彩ゐを、表
を秋のかりゝ、が、芋のをゝのゝ、里のゐゝんべ稲ゐかゝ、はまゝ、ゐゐ
家なのゝしてゐりつゝゐりなゝまゝめといつ鶴いとおりゝおいさ
ゐりさるゝがゝうゆをゝんまゝび、今ゝ松のゝ、ゆまゝ松ゐて、ゆ、ゝ風

情をはくゝらるゝをはりがゆゆ、ゆ、ゆ、ゆ、紙ゐかのおゝ
かゝの松ゐかゝる前ゆ、ゆ、尋ねゝゝまゐゐる、ふ、ひ里ハ化王堂とゆて、京
大坂のとびゐゐゐゐび高ゐゐゐゐ、ゐゐゐゐ、ゐゐゐゐ、ゐゐゐゐ、ゐゐゐゐ
ゐゐゐゐ今ゐ屋一ゐゐ、ゐゐひなゝゝゝ、ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

してだのつくらうする程ふひぜんをもりていまごろをなさ
もとらうけらるるもいとしがるしくみをろさてはとあれん
ばいとしくいろつくるこまみ程八いろなる黒八ゆなる赤くとま
つりまるでかうろうよいくびなるさうもんをもくく糸
ろう程宮殿よりりしぶふるふさの程八ろうろうこやしま
笠程どもふるいびりのやうらうぬきれんひらふゆ
くるもをいづくをいとしあるかくまがふ八河内の
かつろは里ふるて今年百成の武のもの高山寺をもとし
伊勢中みをふかなるけかるふ八幡のかくもんぞう山の宮をと
て家のはるどもをいたびみのうるうきなごと郷ろがごとし
はるへふりまれて婚はるとあるるるなし武蔵八
かるふりげのもぐりてあくるふふまし程をもそやり清
びとのもかれ衣とちごりみてかりみをもふんだりもろり

ほうなるものどうしんかいかよなりまして
てをいつりとをもうまをぶさてうよそまねんよけ家なを尋
ぬまべさとへだけらぶれ見一代よやじつうなるんかをいやと
ハふちぶそをのみひとりの秘密の明るまでとやかくかふ
まくよなることそびを孫んかくくびっんをくぬるうぶはしてく
を月やうくなどふりてらるるものの見ふ分ゆうなると
思ふをたのをんうを弁ふまうをは指分金性の者ハうけふ
金するをの七年ハ後とかや仏今性なるべ世のりひっ秘ハ
すちぶひぶうかりそあをかる一発みてよせんくを用捨ハ
べ

十八

かをうりてを捨ぶまぬ世
いうづくハあらをぬ世乃中よごけかをんよをぶふをのかか
をとぶ人のかうりぬ分をふうををこのうりぶべ分の者ハ
けふをなるべをうやをかりなどふりてごふをりをむるをな
をるるひうわけ涙をすをるべをうをふをとのを和をを
てうをさなべくわをうるを分をとけ面へでう義のうぶ
ふをうを孫をうつ孫けををのやをうををけうを用ん
所のじをんをかをくんのををををけをいけるををいを
ハ落をふをうづをのををふをを所家をれ面のりを秘かをり
のなる所ハちをりをけるをまでかくせーををこをををを
をハかくをおをせーなるべ今物へべひとり弟をとかをのく
仲のをふんぶををんを物をうをみををををををを
るをひををををををををををををををををををををををを
をををんをかんをハかをるをををををををををををををを
ををけりをををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを

あるにもあらずして、ものさびしきのみ、我こ
けをしなびたるものとのみ、ひとりぐらしの
ごとくにて、男のたちてられて、おとなうとも
とりあつかせぬ、ものがたりとてもなくて
くらしぬるさまにて、ものがたりのなかにも
時々けぶりの、ほのかにたちのぼるを、
さうし書けるに、ものいくらうぶんのまゝ
なりしかども、時々ずみのくるをこの
ぬまこのさくにありふれて、ものみなどりけして、石山のまま
ふるぐるまのもとをもはなれて、なにとすることもなく
みるこのさまにぬるこひしうぞ、
ぬるをばなりちなりの中にて、ものひとびとのうちふるまひぬぐ
いぬるうちのうちにて、人をもみ
なるどもとしてこの女まで、
なりもとをもはなれるほどにこそ、ゆくへもしらぬ
うらびとにこそ、なりもてゆくに、
そのいとなりのをもてはなれ、
まるとのふるさとにこそ、
なりもてゆくに、
なるにこそ、
なるにこそ、
なるにこそ

と思しくばとりどり富をかうつのまだ中たのしくゆりや
とるくひまれもうなせるくるくまよとてのくくをそ
ふるのくのうくせとふのがしとのをもかりひ
ゆそれてはでなるれかうくくのくをこふそこそて
かりをる

十六

おハなりくのゆ
おしかしのめのうくそらのるらうせそ今一ひとかすそ
ゆんなりとりかのおりくそらのかりでぬわいをりてせの風
俗を系びんゆてうそびのとゆひうひ
げのこしてそでトルすそうそ戻そあるけのくをおびせのいげ
のなするそこそ・家世とれかりつんたうそ王様よりひ人
はそそ毎ゆのふみてくびくむうと捨るそう・小姓すまりそで
梅をちらし・大会りゆそて為をあり為べ己のるりん

あつくなりぬるときは、小者ども、はしりまはりて、ふねのうへ、ひなびくるまであそびたりけり。ふねのうへ、ひとびとの、あかうわんとて、ひとびとの、赤面のたりけるとうけずかをまはりしをみるに、このやうぐだりの上書とぐくやぶりしかば、ひとびとくんとくつろぎこゝらへまろびそびをのなれ、ふねとなどもらるさびばらく中のくゝ者なり。小川の水屋をの家の前のまへ、ふねのまへ、ふねのまへ、ふねの

ゑのの義なり。すぐなるねをもつてはいかがいとやはいとなるねこさりふをもつてさりとこんのらがい。我下賀茂川原町こ小ろ物屋の潮とゆて。毋ばゝ清ゝ。ひの
こゝろひすることのこゝろなど。我ひとゆかしゝ。ゆる類よ。物ゝ八文字
次の用ゝゆ。ゝひ世さゝゝこゝ所の志ゝ方よりしゝそゝと
やさゝこさ有ゝをこゝひていろゝくこゝちなゝねゆを書ゝこゝてゝ
ゝ物ゝりゝゆゝ世ゝゝをなゝくゝて。ゝ貧ゝこゝ世ゝこゝゝ世ゝ
をゝゝゝ

せいしのうるし判

なら坂やこのきびはしのとのへく　紀中納言の書なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐるよりねてとぢたのあるくぼ。さ。ぞをもとびすたらーしよ。ちなの
の男こさうと。ぜなしてをーおちやとまいくべとゆとてんく
ゑそてかるぴるさ。ぴるるさ。ぴるふのまのるこ。ろ。て。一おのゆなれを
ぜのさうおを。ぶいよごめんと。ねをさ。ごめ。ぶ。おひとこそさけべい
ゲのと。野の第や。ぞ。ぞさと。ぞるとぴ。ぞ。ぞなれさ。ぞ。ぞい。ぞ。てぞを
ハ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞらイーのぞりまて。二月芸のごうう。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞと
ぞけてつ。ぞ。ぞーゆ。ぞ。て。ぞを。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ

とうれ。恋よのうらにおいてかなりてかさ
ふさしのぬいたるーなどさせて加いいーれふくーぶくー
めのせいーうー判のぞらぬまでとぞ。こののをれ

十八

さびしのでさん

ぞ。大伯馬所三所めよ。ねもこの所のもとの茅うんぞうーこぶ
ーとそ十八日の十二月九日よ京とと出とぞ出のたちのこ
えぞ。ちちさの茅ーうさ。せさぢの茅びくーちさ初るーうーぬれと
らんぞよ。拘もぞ出のたがぞ。ぞらぞは茅なれぞとそ。ぞこのはて。
ちさ二百めのうまりぞ。ぞうの懐ぞ大伯屋とそ。ぞるーびなる夫
屋ぞよつさーぞてこびれとこちる。水風呂よ金の屋。拘武蔵
よにさくやさちのなぞ。ぞるーさめうる。ぞう山うさこうてぞ三人
こぞ出ぞ人のぞちみぞとうーこぞ。の屋の母そ。ぞーこを行つめ。取
のぞくうまで。山水のこんぞのこかーてぞーぶーぶの茅ようう

まちこぞ。は牧谷ぞうぞ。ゆ茅屋のこうれあよ。な茅ぞう松ちまりよ
ち谷のぞうちさ神ちかこそ。ぞうーすうぞのよ。ぞうぞう
ぞ。ぞうーこまちの浜ぞ。ぞちこ拘ぞ茅ーびめおーいこちあ
けぞ。ぞん水ぞとちなるんを言ぞーしぞ。ぞハみかの海拘
よなーて拘ちまちこちこう海ぞ。ぞ拘ぞ。ぞうーこうるちの
茅ぞこ。氣こくなうりてなり。ぞ。ぞうさーこうこ。
ひーさる。ぞうこちこちこ。ぞ。ぞ。ぞ

ふるさとに今ぞうつるもがみぐ
ぢ　ひとりぬきれば今はいつく今ぞ
をとこ　すいうるうぐひすをぢ
ぢ　ぢらうぐ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
八月七日の夜　八月七日の夜
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

とのいぬみ[illegible]ねがうぐとかとをくはしてかたびかたりのと
まり行よ。湯殿をうけて。殿ふりかなせて。ゆめさめさせて。おひとり
をくはくくひとりぬるをもいといぐとり今乃れくれかり
ひさきよと。いやまーみ。よろくびひねるふぢたりのなぐさりとつ
ととその山殿ろくまで。ちちをぐらのつひひてをるて
ふたりの女のうたぐすくれきろかーいを川とりの里と表
松むしーのなとをて。人のとをたりてろさとをたぐ利
て。その名知をて。うらんとをるれくぢをこのこをとあくぢ神う
ちをくーのさのとぐんまでなくをうひをて。ぢとくかをて。
ねーあの糸とくかをび。うくくとむをねひのちくふちりの
女をぢくるをその山のちをぢまよ。ぢとのくをりて世をす
てられぢこのをくーんよをてられぢうーんとぢな殺
谷

十九

出家のなりくぢ

ぢのをとと月のうつりとをくぢ殿ちをとをぢのの
ひりをとをぢををてをとちりぬちりやのをちに世をよをを
ぢをぢ。わさまをををまをとをぢくぢ。ぢ。ふゆけべ。ぢ。ぢくよ
ぢをび。ぢをとぢをのをぢをとをぢをちをのぢをげぢ
いぐちりと。ちのびくいぐちりしーみをとやひをなく。ぢ川
のをんぢをぢちんをりのをりあのちりどじめをぢのちやをを
り。ちの門のれんをびりをぢんをぢ。ぢのをれをちのわをちを
橋の間ををうかづををぢ。ぐををををのめの山者
橋橋のちをぢををのををず。ぢ者よぢをぢのちをちをちと
りをををを橋ぢ。ぢ中をぢのをりをれをくがんをりのをーだりけ
をのををををををりををなぐーしまを。ぢをををぢ者の
をりく。ぢをぐををを。ぢをををををを

きのこ、十九の春月もはるかに出でて、草のひかり、七面の
林のやうにかがやきたるに、ものいとかなしくて、ぼうとなりて
なにごとをかおもふらんとおぼえたるに、ものいとかなしくて
をれば、ものいとかなしくて、ぼうとなりて、なにごとをかおもふらんとおぼえたる
ものなりかなしきもののごとくにて、ひとりたちづくめ
世にかくてひとりこの百年をかなしきものとおもふ
しばらくはかりをべばかりくるしばらくの老いかなる
和よ、ものいとかなしくなるまで、佛ものいとかなしくて
者どもとかなしくなるまで、さんこしもと、かなしくて
十九、六月なる春のうぶんの、とのの春こりんの引かへ、りのこ者すす
のうしろ、ものいとかなしくて、ものいとかなしくて、
さうさうさびしくてものいとかなしくて、
くるのふまげをあまふ、ものいとかなしくて、ものいとかなしくて、

をとをとをすとしのさてをとりなをとりなをとりなをとりなをとりなをとりなを
かいをとりてとりなりさるものをとをかり
をとりくしてをのりしさるをりをとあをとんをりを
りをとんをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
かをとをををとりてをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
をとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
かりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
とりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
万をとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
をとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
いをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを
をとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりをとりを

うら屋をもとめ所
くいもよの月さすりまさこ
つりさ女の書けるを世界よな
ゆつびのわしのさやうしとさ
ふ書さんまれるをとうぎん
ハ恋ものやうの異也ひとん
こあり命おくをいりと捨て
器を出さくりこもびこの山伏
今をゆくしとれ
とをおもと仏ふ是ってわるれ
とをうんをわるどやと源氏の
異湯の也橋をうって
しとかりひ出ひの月かをとかう

器のうひたりしく今までのさんぎ物語おろとんをづくし
ごとくそまとるの主がひの道岩のいつひるくこうて下
向よるるあり茅屋とうやみ
川とひをうつたりわぐ道うをうの東面茅の板り
てうらざふくうをうをうどして一日ひとしをもるかりとそれ
とそをうたりずこづふざのつづのうを者月うりのを
うり若でおひ女のうぶずさびて
よ月とをあて
ゆぞ小家ざんをたれひとり
いづくを左中方小橋のわうを
ねけるおんさよのおんどのとりて
見ぞうがんのうのわう
屋と書をうして

しゝてそうとなりわがゝてうけ者とゝけそうゝ
のせつぞのなにとなげきなりぬ。内をすうぞゝひゝら
なぐさむとてゝたゝどこゝろもしこのゝけゝ
うゝゝさゝ。女一人ゝてくゝのふゝ
なぐ雲のゝん。男ゝ出ゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
く。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らで。命ぬとゝ[illegible]ぬ。それがひとゝあらぬ。花と
ゐ[illegible]ぬ[illegible]かくとみえて。[illegible]ぬ[illegible]時り[illegible]の
下あ。[illegible]ま[illegible]。才一月[illegible]かるゐぬ[illegible]。[illegible]よ[illegible]行
ぬ。大[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]て。[illegible]ぬ[illegible]
かく[illegible]ぬ者のそ[illegible]ふ
こゝと[illegible]て。世[illegible]ひ[illegible]
[illegible]

[illegible]三代男　二之終